

## 第4段階 ガリラヤの大宣教

### E. 十二使徒の任命と「山上の教え」

#### 6. 山上の教え、第5部：

無条件の愛は真の正義の基礎である

ディリージーザスニュース #072

基本テキスト: MT 5. 38-48 (並行テキスト: ルカ6.27-30, 32-36)

38 「『目には目を、歯には歯を』と言われていたことは、あなた方も聞いているところである。（出エジプト記 21:24）

39 しかし、わたしはあなたがたに命じます。悪い人に手向かってはいけません。もし誰かがあなたの右の頬を打つなら、もう一方の頬をも向けなさい。40 また、もし誰かがあなたを訴えて下着を取ろうとするなら、上着をも渡しなさい。41 もし誰かがあなたを無理やりマイル行かせようとするなら、わたしはその人と一緒に二マイル行きなさいと命じます。

42 「わたしはあなたに命じます。求める者には与えなさい。借りようとする者を拒んではなりません。<sup>だれか</sup>があなたのものを取ったとしても、取り返してはいけません。わたしはあなたに命じます。何も期待せずに貸しなさい。罪人でさえ、罪人に貸して、全額返してもらうことを期待します。

43<sup>MT</sup> 「あなた方は、『隣人を愛しなさい』(レビ記 19.18)、『敵を憎め』(申命記 23.6)と言われているのを、聞いている。44 しかし、私は、あなた方に命じる。敵を愛し続け、あなた方を憎む者に善行<sup>を</sup>続け、あなた方を呪う者を祝福し続け、<sup>あなた方を迫害し</sup>、虐待する者のために祈り続け、45<sup>MT</sup> それは、あなたたちが天の父の子どもとなるためです。父は悪い人にも善い人にも太陽を昇らせ、正しい人にも正しくない人にも雨を降らせてくださるのです。

」わたしはあなたがたに命じる。あなたがたの天の父があわれみ深いように、あなたがたもあわれみ深くありなさい。そうすれば、あなたがたの受ける報いは大きくなり、あなたがたはいと高き方の子どもとなるであろう。なぜなら、いと高き方は、恩知らずの者や邪悪な者にも、あわれみ深いからである。」

46<sup>MT</sup> 「あなたがたは、自分を愛してくれる人を愛したからといって、何の誉れがあろうか。<sup>MT</sup>何の報いがあろうか。<sup>T</sup>罪人でさえ、自分を愛してくれる人を愛します。自分に善行をしてくれる人に善行をしたからといって、何の誉れがあろうか。<sup>MT</sup>罪人<sup>や</sup><sup>MT</sup>取税人でさえ、そうしているではありませんか。47 また、自分の同胞にだけあいさつをしたからといって、ほかの人々にまざって、何の行ないをしているのですか。異邦人でさえ、そうしているではありませんか。

48 「それゆえ、わたしはあなたがたに命じます。あなたがたの天の父が愛と憐れみとに満ちておられるように、あなたがたも愛と憐れみとに満ちておられるように。」

====

## 第4段階 ガリラヤの大宣教

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ = <sup>MT</sup>、マーク = <sup>M</sup>、ルーカ = <sup>L</sup>、ヨハネ = <sup>J</sup>、使徒行伝 = <sup>A</sup>。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書の書を識別します。さらに、**イエスの言葉は赤の斜体で表記されています。** 旧約聖書からの引用は大文字で表記されています。

コンテキストダイジェスト	
位置	ガリラヤの山で
タイムライン	西暦31年5月（第16月）
イエスの生涯	第4段階: ガリラヤの大宣教
	E. 十二使徒の任命と「山上の教え」
タイトル	6. 山上の教え、第5部： 無条件の愛は真の正義の基盤である

コメント：

今日の朗読で、イエスは真の正義の核心、つまり、相手がどんな扱いをしようとも、無条件に相手を愛する意志に触れています。例5と6は、愛が敵をも愛するように私たちを驅り立てる方法に焦点を当てています。なぜなら、神がまず私たちを愛して下さったのはこの方法だからです。

イエスは、神の愛は私たちのすべての必要を直接的に、無条件に満たすことによって私たちを「完全」にすると信じていました。したがって、神の愛が常に私たちを強め、導いてくれるので、積極的に反対する人や私たちを憎む人にも愛を与え続けることができます。神から与えられた無条件の愛の力は、あらゆる状況で常に「正しい」ことを行う能力、つまり「正義」である能力です。

イエスはまず、この真理を、私たちを虐待する人々との関係に適用しました。旧約聖書の「目には目を」という戒めは、報復を正当なレベル、つまり相手が最初に行ったこと以上のものに限定した愛の表現でした。罪深い人々の普遍的な傾向として、彼らは報復において元の犯罪以上のものを求め、犯罪者に「犯罪は報われない」ことを示し、二度とそのようなことをしないようにしようとします。旧約聖書のこの戒めは、その選択肢を排除し、犯罪に対して平等で正当な対応を強制しました。それは愛の限定的な表現でした。

それからイエスは真の正義の核心、つまり無条件の愛に至り、弟子たちに、悪人に抵抗するのではなく、彼らが私たちに求めている以上のものを与えるようにと命じました。これは愛ある行いです。なぜなら、彼らの惡に対して私たちが示す善良さとは対照的に、彼らの行為の罪深さをはつきりと明らかにするからです。自分の罪深さと利己主義を本当の姿で見なければ、誰も自分のやり方を変えようとしたり、悔い改めようとしたりはしません。善行で表現される無条件の愛で悪に対応することは、悪人に対して行う最も愛ある行いです。なぜなら、それは彼らに真の悔い改めへの扉を開くからです。

## 第4段階 ガリラヤの大宣教

それは、イエスの命令に従う人々にとっても、非常に大きな代償を伴う。イエスはそれを最もよく知っていた。イエスが私たちを無条件に愛することの代償を恐れなかつたのと同様に、イエスは、私たちが敵に対して報復しないことを選んだために、追随者たちが大きな損失を被ることを予想することを躊躇しなかつた。

次の段落（例6）で、イエスはついに、正義の人生における無条件の愛の重要性を説きました。まず自分を愛してくれる人を誰でも愛することができます。そのために正義はまったく必要ありません。しかし、神の愛だけが敵に対しても無条件に及ぶのです。この種の愛は、重要なのは、それを受け取る人の価値や善良さではなく、それを与える人です。

そのような愛を学ぶことは、イエスがすべての信者に教えようとしている最大の教訓です。私たちの人生におけるすべての人間関係は、神の無条件の愛を与えるための実験室としてイエスによって設計されています。私たちを最も愛さない人々は、無条件の愛を実践する最大の機会を与えてくれます。私たちには実際に敵が必要なのです。

「完全」であれ、あるいは「完璧」であれという命令を述べています。イエスは、愛において完全であること、つまり、三位一体の神がそうであるように、どんな状況でも、誰に対しても無条件に与えるだけの愛を持つことについて語っているのです。私たちが神の愛と力に満たされ、そうすることができるようになったとき、私たちは「完全」なのです。ルカは、イエスが愛に慈悲という性質を加えたと語っています。これは、敵に対する慈悲が、敵に対する無条件の愛の究極の表現だからです。

神の愛と慈悲は私たちの揺るぎない目標ですが、真実は、私たちの誰もがこの人生で完全にそこに到達できるわけではないということです。それでも、それは私たちが情熱的に、全力で追求すべきものです。これは真に正義の人の態度です。彼らは神が彼らを愛し続けるように、無条件に愛することを切望します。

『山上の教え』における真の心の正義に関するイエスの教えのあらゆる側面は、無条件の愛の原則の具体的な適用です。この愛を与え、この愛の中でイエスと共に生きるよう教えることで、イエスは「律法と預言者を成就」するために来られました。無条件の愛以外には何も役に立ちません。

敵に対する無条件の愛に関するイエスの教えは、同時代の人々にとって危険なほど過激なものでした。旧約聖書は敵に対する報復に満ちています。詩篇は報復と復讐の祈りに満ちています。イエスはそれをすべてひっくり返しました。イエスは私たちに、はるかに優れた生き方を示しました。それはまた、犠牲を払い、困難な生き方もあります。

の時代と同じように、現代でも不人気で過激なことです。過去20世紀で、テクノロジーと情報は大きく変化しました。人間の罪深さ、つまりすべての敵意の根源は、変わっていません。敵を愛せよというイエスの命令は、いかなる社会でも決して現状維持にはなりません。教会では規範となるべきです。なぜなら、愛は神の王国の法だからです。

応用：

宗教は儀式や規則を非常に重視します。哲学は、私たちが行うことの理由に没頭します。神は愛を重視されます。なぜなら、三位一体の神の存在と行いのすべては愛だからです。イエスは亡くなる前の最後の夜、何よりも愛こそが私たちを彼の弟子として識別するものであると宣言しました。

## 第4段階 ガリラヤの大宣教

私たちキリスト教徒は、敵のために進んで命を捧げ、最もそれに値しない人々に慈悲を惜しみなく与える愛についてはあまり知られていません。私たちの個人とコミュニティの歴史は報復と戦いに満ちており、愛は 慈悲を醸し出す方法。

私たちはいつになつたら、今日の朗読にあるイエスの明確な命令を、イエスがそうであるように真剣に、そして中心的に受け止め、イエスの無条件の愛の学校に入学することをこの世における私たちの主な仕事とみなすのでしょうか。

不快な、あるいは傷つけるような行為に対して無条件の愛で応じなかつた最後の時のことを思い出せますか？その代わりに何をしましたか？愛情表現として、何を違つた言い方や行動で言つたらよかつたでしょうか？

あなたの人生の中で、最も愛するのが難しい人を3人挙げてください。

神はなぜ彼らをそこに置いたと思いますか？

次に彼らと会うとき、神の愛を具体的にどのように表現できるでしょうか。

あなたはそれを実行するつもりですか？